



毎月、第4土曜日の午前10時から、東海民衆センター、〈ノーマア南京〉名古屋の会と3者で小牧基地への申し入れ行動を行っています。先月は、ブルーインパルス展示飛行と基地強化の問題を申し入れました。以下、1月の申し入れの文章です。

ブルーインパルス飛行の中止と基地強化をしないことを要求する申し入れ書

小牧基地司令 尾崎義典様
自衛隊員の皆様

1. ブルーインパルス展示飛行に反対します。

3月5日、今年もまた小牧基地オープンスペースが開催されます。一昨年からオープンスペースで始まった、ブルーインパルス展示飛行が今年も行われるという動きがあります。

航空自衛隊小牧基地は、県営名古屋空港の滑走路を使っています。民間機が離発着する小牧基地でのアクロバット飛行は非常に危険です。更に、小牧基地周辺は住宅が密集しており、万が一、事故が起こった場合にはその被害は甚大なものになります。過去のブルーインパルス飛行では、1982年航空自衛隊浜松基地で墜落事故を起こし、パイロット1名が死亡し住民が負傷するという大事故が起こっています。また、91年と2000年には訓練中に墜落し、パイロットが死亡するという事故も起きています。また、ここ数年で何度も所属航空機による部品落下事故が起きるなどしています。これらの事故は、事故原因も究明されず、周辺自治体、住民に不安を与えています。

ブルーインパルス展示飛行に対して、周辺自治体も反対をしてきました。昨年も、春日井市と市議会、住民による「春日井市飛行場対策市民協議会」は中止を求める要望書を提出し、絶対に容認できないとしています。こうした周辺住民、自治体の意向も聞かず飛行を強行することは絶対にあってはならないことです。

私たちは、航空自衛隊の存在を誇示するために、周辺住民を危険にさらすアクロバット飛行をする、ブルーインパルス展示飛行を行わないよう強く求めます。

2. 基地機能強化に反対します

航空自衛隊が新たに導入する、新型空中給油機 KC-46A3 機は鳥取県の美保基地に配備されることになりました。KC-46A は、航空自衛隊が導入を予定しているオスプレイに給油ができる機能を備えています。現在、小牧基地に配備されている KC767 空中給油機は、F35 ステルス戦闘機などにも給油できます。空中給油機の導入によって、戦闘機の飛行時間は大幅に延長でき、その戦闘能力は格段に向上します。航空自衛隊総体の装備が、F35 ステルス戦闘機やオスプレイの導入など、拡大強化しています。安保法制（戦争法）の成立で、自衛隊が米軍などとともに実戦に参加する危険はますます高まっています。

C130 輸送機は、アフガニスタン、イラク戦争などでアメリカの戦争に加担をしてきました。安保法制（戦争法）の成立で、「輸送と教育」が主任務である航空自衛隊小牧基地が、それ以上の役割を担うことになるのではないかと、私たちは危惧をしています。

小牧基地でのブルーインパルス飛行の実施は、派兵拠点として機能をしてきた小牧基地の役割を隠蔽し、自衛隊の存在を内外に示そうとするものです。基地や軍隊が住民を守るどころか、ひとたび戦争が起これば犠牲になるのは市民であることを示す事例は、枚挙にいとまがありません。

安倍政権の下で、軍事費は増加し自衛隊の装備もますます攻撃的なものが導入されようとしています。そのことは周辺諸国との間にいたずらに緊張関係を高め、新たな軍拡競争と緊張を高めます。

私たちは、日本国憲法の前文と9条の精神に則って政治を行うことが平和への道だと確信をしています。小牧基地司令はじめ、隊員の皆様に改めてこのことを訴え、ブルーインパルス展示飛行を中止と基地機能強化をしないよう、申し入れます。

2017年1月28日